

平成 24 年度 第 2 回 八幡浜市指定管理者選定委員会 会議概要  
※「みなと交流館等」指定管理者の選定審査における質疑応答の内容と審査結果

【質疑応答】

申請者 八幡浜みなと未来応援団（「みなと未来」と表記）に対する質疑応答

- 委員：館長の人選は行政のOBで観光業務経験のある人としているが、意図は何か。
- みなと未来：公の施設ということで、行政の考え方や段取りが分かる人がいた方が、公平公正な運営ができるのではないかと思います、行政OBの方とした。また、道の駅とみなとオアシスを考慮して、観光業務経験者とした。
- 委員：事務長は、「当面の間、グループの職員を充てる」とあるが、当面の間とはどれくらいか。
- みなと未来：八幡浜市で雇用したスタッフが経験を積んで事務長になることもあるが、当面の間は、コンソーシアムの中で事業を展開し、事務長は弊社の職員を充てることとしている。
- 委員：勤務条件で、休日を「月ごとの、土曜日、日曜日、祝日の日数とする」としているが、どういったシフトを考えているか。
- みなと未来：法律の基準を守るため、その月の土日、祝日の日数とし、土日の分を平日に充てる。
- 委員：どーや市場やアゴラマルシェとの連携やフェリー会社とのタイアップはどのようなものと考えているか。また、収支計画に備品購入費が無いが、運営できるのか。
- みなと未来：どーや市場やアゴラマルシェとの連携については、イベント時に、食べ物を供給していただく連携を考えている。フェリー会社については、九州の港や船内での広告掲載などを考えている。備品は、仕様書のリストを確認し、機器の購入は必要ないとした。
- 委員：初年度は、イベントよりもモニタリングが中心の印象を受けたが、どうか。
- みなと未来：初年度は、観光情報や活動団体などの情報収集が必要だと考えている。来年の4月開始までに、基本的なことを把握して、問い合わせの対応と情報提供ができるようにする。
- 委員：イベントは月1回の開催が可能か。また、事業計画のセグウェイは、会社の持ち出しで購入するということか。
- みなと未来：セグウェイは、アトムグループで購入する考えであり、今回の収支に含めていない。イベントについては、ウォークラリーや婚活パーティーなどのオリジナルイベントを実施し、これまでのノウハウを使って月1回のイベントを実施する。地域住民の要望や、どーや市場・アゴラマルシェとの連絡協議会の意見を吸い上げて、イベントを開催したい。
- 委員：海外からの医療観光については、グループで観光事業の資格を取っていないと思うが、旅行業者と連携するということか。
- みなと未来：現在、中国の方を対象に、日本の先進医療による検診を受けていただき、八幡浜や大洲や道後を観光していただくプランを作っている。確かに、旅行業者の資格も必要になると思うが、そこまでのことは考えていない。
- 委員：NPOの立ち上げ支援をみなと交流館でやるのか。また、介護とみなと交流館の結びつきは、どういうイメージになるのか。

みなと未来：NPOの支援は、中間支援業務として制度の紹介や助言などの支援を想定している。

ボランティア団体には、経営的な支援が重要であり、ボランティア団体を指導するセンタ  
ー的な役割を果たして、八幡浜市でも地域団体の活性化につながればと考えている。介護  
に関しては、施設を利用した健康教室や介護教室の開催を考えている

委員：旅費が少ないが、道の駅とみなとオアシスの全国大会や会議に参加できるのか。

みなと未来：四国外が1泊2日を2回、四国内の日帰りを2回で予定しているが、必要であれば、  
自助努力で参加したい。

委員：市の積算根拠では、イベントチラシの新聞折り込みを年間60万で計上しているが、マス  
コミやタウン誌を利用するのでチラシの折り込みは必要ないということか。

みなと未来：積算根拠で新聞折り込みの記載はあったが、仕様書になかったため、予算化してい  
ない。新聞折り込みが必要であれば、尊重したい。

委員：構成員の中に、ビルの管理ができる団体がいるのに、なぜ市の積算より委託料が増えて  
いるのか。委託料を削減し、雇用環境を重視して、人件費を増加する考えはなかったのか。

みなと未来：委託料の増加は、インフラの保守管理として積算根拠にないものを計上したためで、  
ICTなど技術的な問題を意識している。その他の委託については、地元業者を優先する  
ことを考え、市が示した積算根拠を優先した。

委員：自主企画を立てて、指定管理者が収入を得ることもできる。プレゼン以外に考えている  
ものがあれば教えてほしい。

みなと未来：景色や魚が美味しいことを前面に出して、ウォークラリーの後に、美味しい食べ物  
を提供したり、婚活パーティーでも、食べ物や景色などの特徴をいかしたいと考えている。  
住民の息づかいが分かるようなイベントを実施することが必要だと思うので、松山で実施  
しているイベントをみなと交流館で実施し、小さな規模になるかもしれないが、今やって  
いることを受け継ぎながら、少しずつ変えていきたいと考えている。

委員：お客さんを呼ぶために、最初の1年間は具体的にいろんなことをやるのが趣旨であり、  
八幡浜市の様々なボランティア団体等の連携を図りながら、施設全体としての魅力を発信  
してほしいと考えている。施設から発信していく夢や、指定管理を受けたらこうしたいと  
いうものがあれば、教えてほしい。

みなと未来：その趣旨は重々感じ、熱意を持ってやっていきたい。もう少しイベントの具体性が  
あればいいと思うが、市の中での動きやアゴラマルシェやどーや市場との協働、お世話に  
徹して、敬作ウォークや座敷雛など既存イベントの活性化から提案したい。オープニング  
イベントが最初の大事なイベントだと思うが、選定後には、市との協議の中で、カー杯、  
精一杯やりたいと考えている。

## 申請者 港まちづくり八幡浜（「港まちづくり」と表記）に対する質疑応答

委員：職員の配置体制について、館長に港まちづくり八幡浜の方が就任し、その下にYGP（八幡浜元気プロジェクト）の方が入る形になるのか。

港まちづくり：館長は、NPO法人港まちづくり八幡浜から就任するが、もう一人の常勤職員は現地で採用する。YGPの方は、希望があれば別だが、現時点では考えていない。

委員：人件費で、準職員が430万円で、常勤職員よりも高いがどうしてか。また、夜間パートはどうなっているか。

港まちづくり：準職員は2名の合計金額であるため、常勤職員の方が給与は高い。夜間は、9時半までが開館時間であり、1日5時間で750円の時間給で年間の金額を計算している。

委員：提案に、施設とお魚牧場との連携があるが、現状の改善案があれば教えてほしい。また、駅中浜っ子は、ちゃんぽんの出店でイベントに協力している。提案の八幡浜サポーターも、ある程度の報酬やボランティアで、そのようなお手伝いが可能か。

港まちづくり：港とお魚牧場、赤レンガ倉庫は、自転車を使った回遊になると考えている。それ以外にも、体験クルーザーなど、海からのお魚牧場へのアクセスを連携につなげたい。八幡浜サポーターについては、広く市民に募集して、ボランティアに参加してもらえる人を募りたい。手伝ってもらった際には、地域通貨をイベントの出展料として利用できるような仕組みなども考えている。

委員：イベントには相当な人数が必要だが、ボランティアに支払うためにも、参加費や収益を上げるようなことは考えていないのか。また、ユーストリームやデジタルサイネージは、費用が高くなると思うが、どう考えているか。

港まちづくり：ちゃんぽんやじゃこ天の実演販売はお金にならない。今後は、業者からの出資や支援をお願いしながらやっていきたい。ユーストリームは、災害対策としてFM放送局を設立したいという思いがあり、その前段として考えた。FM放送局と比べて、資格も不要で、資本的にも難しくない。八幡浜の情報発信とリアルタイムな架け橋としてユーストリームを企画したい。

委員：イベントも大事だが、施設の管理も大事である。計画では、外部委託となっているが、港はフェリーの関係で夜間の出入りが多いため、違法駐車への対応や24時間の警備について、その対応や外部委託を監視する機能が団体にあるのか。

港まちづくり：施設の警備については、機械警備を検討している。場合によっては、9時半以降の当直制度も必要になるかもしれないが、施設も未完成で、図面上の考察になるため、今後、詳細が決まれば、警備会社と協議して、万全な体制にしたいと考えている。

委員：外部委託の場合は、エレベーター事故の問題と同じように、外注業者をチェックする機能が重要であり、そのような方が構成員にいるのか聞きたい。

港まちづくり：NPOの中には、医師や建設業、電気事業者の方などがおり、瑕疵状況がないかの監視はできるもとと考えている。

委員：交流館については、八幡浜市のいろいろな力を結集して、新しいものを生み出したいというものであり、アゴラやどーや市場と上手く連携してやっていくことが重要になる。その点について、考えや思いがあれば教えてほしい。

港まちづくり：誰もが八幡浜に住んで、まちを良くしたいという思いは共通項である。我々の方から、企画に対する打合せを頻繁に行い、コミュニケーションを取って、一緒にやっていく。これまでの活動で、元気で明るいまち八幡浜というものが基軸にあり、自ら汗をかくことを率先してやりながら、協議の場をきちんと持っていきたいと考えている。

委員：収支の件で、備品購入が少ないが、スタッフジャンパーのようなものは必要ないのか。

港まちづくり：スタッフ用のTシャツやジャンパーなどは製作する予定であるが、収支計画は、職員分の制服代のみであり、ボランティアスタッフ自身に購入してもらう。

委員：八幡浜市内の高校生との協力はどうか。

港まちづくり：かまぼこカーテンや、みかんの丘をつくった時も、3校全てに協力してもらった。今後も積極的に連携していきたい。

委員：募集要項の中で、自主企画で収益を上げて良いとしているが、自主的な財源を確保できるような具体的なイメージがあれば教えてほしい。

港まちづくり：イベント時の出展料や缶バッチの販売などを考えている。市民運動につながるものを商材として、キーホルダーやTシャツなどの開発も検討している。イベントの開催には、ある程度の収益が必要であるため、考えていきたい。

委員：様々な提案があつて、面白いと思うが、指定管理者は、施設の使用許可など、行政活動の一部を受け持つことになる。場合によっては、公権力の行使ということもしなければならないので、適正な管理についても、十分に自覚してほしい。

## 【審査結果】

採点の結果、港まちづくり八幡浜の点数は、

1,080点 / 1,500点満点
-------------------

で第1位となり、港まちづくり八幡浜を、「みなと交流館等」の指定管理者候補者として市長に報告することについて、全会一致で決定した。